

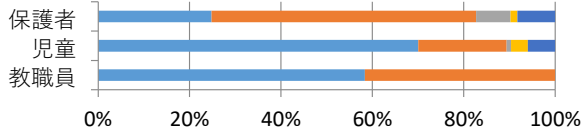
令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

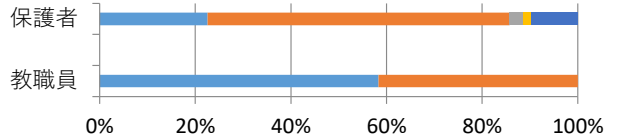
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

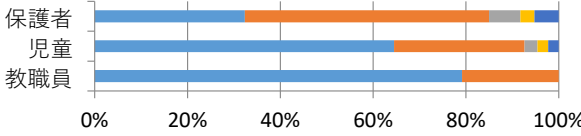


考察：今年度も、子どもたちの『笑顔』をキーワードに、安心して学校生活を送って欲しいという願いをもって学校運営を行い、全職員で取り組んできた。「一人一人の児童生徒の尊重」「道徳・心の教育の充実」については、児童はほとんど変わらなかったが、保護者の【4】の割合が減った。今年度より加わった「わからない」の回答が気になる。今後も、学校での子ども達の生活の様子や学習内容をさらに積極的に発信をしていきたい。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

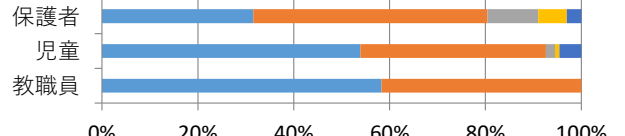
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

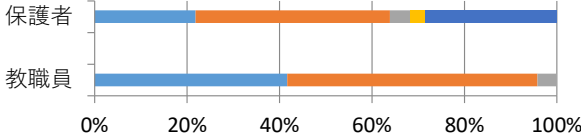


考察：職員は、それぞれに校内研修等での学びを生かして授業改善に努めてきた。児童の評価は昨年度より微増だったので、保護者への理解を深める必要がある。次年度も、引き続き授業改善への取組を継続していくとともに、ICTの活用を取り入れた学校での取組の様子を広めていくことにより、保護者に、学校の「授業力向上」と「タブレット端末活用」の取組への理解を図ってきたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

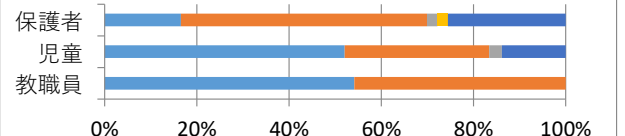
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察：教職員と保護者の評価に差がある結果となった。学校の支援体制や取組への理解が、保護者へ十分に浸透していないと言える。この結果を真摯に受け止め、今後も、学校での取組等を見直すとともに、学級懇談会や学校だより等の様々な機会や手段を活用して学校の取組をさらに発信していき、家庭や地域に伝え理解していただくようにしていきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>考察：教職員の評価は上がり、職員の意識の高まりが見える。児童の評価はほとんど変わらなかったが、保護者の【4】【3】の評価はやや減った。また、今年度より選択肢に加わった「わからない」も多かった。コロナ禍の中、少しずつ学校行事やPTAの行事等で来校する機会も増えてきたが、まだまだ十分でないことが影響していると思われる。次年度は様々な制限がなくなり、学校が家庭や地域と連携する機会が多くなってくると考えられるので、それらの機会をとらえて、保護者に学校の取組を発信していきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

9 学校独自1	10 学校独自2
子どもたちは、進んであいさつをしていますか。	授業の中で、子どもたちが、友達の意見を聴いたり、自分の考えを伝えたりして学び合っていると思いますか。
<p>考察：「あいさつ」や「学び合い」については、児童は【4】の評価が多く、自己肯定感の高まりが感じられた。今後も、挨拶の励行を進め、学校内ばかりでなく地域にも広げていきたい。また、次年度は、制限も少なくなることが予想されるので、これまで以上に学び合いを充実させ、その様子を発信していきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

11 学校独自3	12 学校独自4
学校は、花などの栽培活動を充実させ、自他の命を大切にしていける態度を育てることができていると思いますか。	子どもたちは、友だちとなかよくしていると思いますか。
<p>考察：教職員や児童の【4】【3】の割合は多かった。今年度は、「人権の花運動」や「花とみどりの博覧会」があり、花などの栽培活動に係る活動が多かったことも要因としてあげられる。今後は、栽培活動を児童の自主的な活動へと広げていき、自他の命を大切にす態度の育成を充実させていきたい。また、「友だちとなかよく」評価では、児童の【4】の割合が昨年度より増えている。今後も、「なかよしタイム」や「わかばタイム」の活用により、児童の縦と横のつながりを強くしていくような取組を進めていきたい。</p>	

来年度の具体的な取組について

- 校内研修や日々の取組を充実させ、子どもが主体的に学びとる授業づくりのために、タブレット端末等のICT機器を効果的に活用し「めあて・対話・ふり返り」を充実させた授業改善をさらに推進していく。
- 今年度取り組んだ「わかばタイム」をさらに充実させ、子どもたちが安心して過ごすことができる学校になるように、日常生活における一人一人の子どもの居場所づくりと活躍の場づくりに取り組んでいく。
- 花と豊かな緑に囲まれた環境を生かし、豊かな人間性を育むために、花と緑に囲まれた潤いのある環境づくりに努めるとともに、樹木への理解を推進する学習に取り組む。
- 校内の支援体制を整え、家庭や地域、関係機関と連携を取りながら一人一人に応じた支援を行っていく。
- 次年度は、制限も少なくなり、保護者や地域の方に学校に来ていただくが増えてくると考えられる。機会をとらえて、学校での取組を発信したり、保護者や地域とつながりを持つような取組を推進していく。

学校関係者評価

- 子どもたちの挨拶がとてもよく、声をかけてくれる子どもも多く、交通指導をされている方に対して感謝の言葉を伝える子どももいる。今後もそのような子どもが増えていくことを望んでいる。
- 先生方は、コロナ禍で制限のある中、子どもたちのよさを見つけて、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていることが分かる。今後も学び合い等を工夫しながら授業改善に取り組んで欲しい。
- ICTを活用した授業についてはたくさんの教室で活用され、子どもたちの使いこなす技能の高さに驚いている。今後も激しく変化する社会に対応した教育力の向上に努めて欲しい。